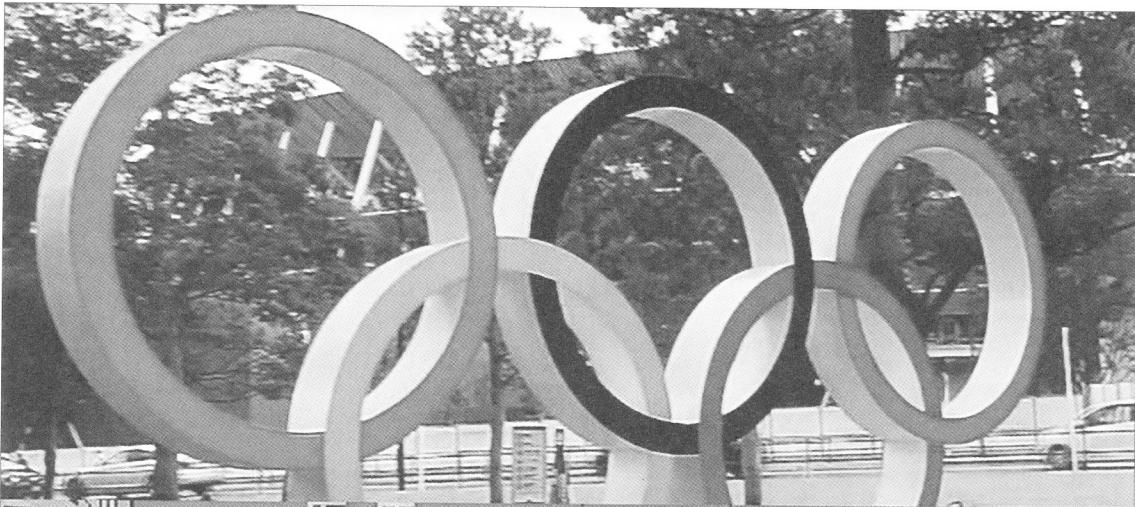


反戦情報

2021・7・15 No.442

2001年2月9日第3種郵便物認可 第442号
2021年7月15日発行（毎月1回15日発行）

東京・4度目「緊急事態」、でも五輪は強行



テージIII	医療			療養者 (10万人あたり)	PCR 陽性率	新規感染者 (10万人あたり)	経路不明
テージIV	病床(全体)	入院率	病床(重症)				
東京	28%	34%	39%	35人	5.8%	30人	62
沖縄	42%	38%	53%	54人	4.3%	27人	45
佐世	20		13	16	3.4%	11	50

東京「メイン会場」前の五輪マーク（上）4度目の緊急事態宣言発出に追い込まれた東京のコロナ感染状況（7月8日）

〈巻頭言〉

パンデミックの中、東京五輪は、なぜ中止しないのか？ 2

〈政治評論〉

不忘初心、継続前進

野葉 茂 3

〈北海道から〉

どうしようもない菅政権と相似の鈴木道知事 山崎 光男 5

〈教科書問題〉

検定済み歴史教科書記述に改変の政治的圧力！

－萩生田大臣先頭に文科省あげて－ 高嶋 伸欣 6

〈沖縄報告〉

沖縄戦の慰靈とは、辺野古新基地を造らないこと 沖本 裕司 8

〈ブログ紹介〉

南部戦跡の死者の魂よび覚ます

－6・23沖縄「慰靈の日」の少女の詩－ 佐藤 定夫 10

〈岩国から〉

岩国・福田市長による3つの市政私物化

本田 博利 12

〈上関から〉

山口県による海上ボーリング調査許可を糾弾

－中国電力の上関原発計画－ 中嶋 光雄 14

〈文化評論〉

アーサー・ビナードの『ありえない！』話

－東京五輪開催による休日移動－ 林 伸一 15

反戦情報創刊40周年によせて 16

〈歴史〉

『アリランの歌』再考(9) 吉留 昭弘 20

〈映画の世界223〉

『愛しのソナ』 鈴木 右文 23



菅政権は7月8日、コロナ感染症対策について、東京に4度目の「緊急事態宣言」を発出した（沖縄は「宣言」継続。埼玉・千葉・神奈川・大阪は「重点措置」継続。8月22日まで。北海道・愛知・京都、兵庫・福岡は「措置」解除）。

「ワクチン接種の加速化」で高齢者の感染・重症化を抑えこめば、「医療崩壊も防止」でき、あわよくば「有観客のオリンピック開催」に持ち込めるうえ、国民的に祝祭気分を煽り立てれば広島はじめ国政選挙3連敗など、積み重なった自らの失敗をチヤラにもでき、ひいては来るべき自民党総裁選や衆院選での勝利も読める——そう菅義

偉首相はふんでいたにちがいない。それで全国の自治体に無理やり「ワクチン接種」計画をたてさせ「1日100万回以上」との発破をかけてはみたものの、喧伝した「ワクチン確保」の化けの皮はすぐにはがれて供給不足が露呈、ずさんな計画はすぐに破綻をきたした。東京・大阪では自衛隊まで動員した大規模接種作戦も展開したが、混乱の末、停止、一般の職域

ま發言撤回に追込まれた。国民生活への無神経かつ無慈悲きわまりないこうした政権の対応への怒りは、7月4日投開票の東京都議選に端的にあらわれた。小池都知事の与党・都民ファースト

進する政府の身勝手さ——それに加え金融機関を手先に使つて「営業自粛」への監視を進めようとする恫喝大臣の対応にはさすがに怒りが爆発寸前まで高まり、すぐさま発言撤回に追込まれた。

いまや「ばつたくり男爵」の異名で有名なIOC・バッハ会長だが、商業主義の「五輪」がはじまったのが1984年「ロス五輪」からだ。スポンサー企業集めやプロ選手の参加も解禁され、「アマチュアスポーツの祭典」という虚飾も剥がれ落ちた。以来、IOCは商業主義路線を突っ走ってきたのだ。それが五輪「パートナー」「サポーター」制度や、巨額のテレビ放映権で、IOCは4000億円以上の協賛金を集めていると言わされている。まさに巨額の「五輪マネー」が背後で蠢いているのだ。日本での利権を差配する元締め的存在が、あの悪名高い「広告代理店」最大手の電通なのだ。自民党「専属の」とでもいうべきか。公衆衛生など屁とも思わない、だが利権は絶対放さない連中なのだ。

五輪中止・延期の世論は6月段階でも6割を超えていた。にもかかわらず政権は、ほとんどが「無観客」に追い込まれながら、このまま五輪開催を強行する腹だ。

いまや「ばつたくり男爵」の異名で有名なIOC・バッハ会長だが、商業主義の「五輪」がはじまったのが1984年「ロス五輪」からだ。スポンサー企業集めやプロ選手の参加も解禁され、「アマチュアスポーツの祭典」という虚飾も剥がれ落ちた。以来、IOCは商業主義路線を突っ走ってきたのだ。それが五輪「パートナー」「サポーター」制度や、巨額のテレビ放映権で、IOCは4000億円以上の協賛金を集めていると言わされている。まさに巨額の「五輪マネー」が背後で蠢いているのだ。日本での利権を差配する元締め的存在が、あの悪名高い「広告代理店」最大手の電通なのだ。自民党「専属の」とでもいうべきか。公衆衛生など屁とも思わない、だが利権は絶対放さない連中なのだ。

（編集部N）

不忘初心、継続前進

野 葉 茂

6月28日付の日本経済新聞に、「内閣支持率上昇」という記事があった。菅内閣の支持率が43%はある、というのである（ただし不支持率が50%はあるとも書かれている）。不支持率50%よりも、この時点での政府支持率が4割以上あるというのがすでに驚きである（他紙調査でも菅内閣支持率は6月に若干上がっているという）。

テレビを見ていたら、各地の聖火リレーが放送される。ある時、聖火リレーの前で赤旗を振りながら走る人がいて、なかなか勇気があるなあ、と思つたら、某多国籍飲料メーカーの旗であつたのがつくりした。「反対」の声だけをカットするほどビクつく今のメディアにはそんな蛮勇は奮えないのであった。菅

首相は野党議員が国会で何をどう質問しても「開催に当たっては、選手や大会関係者の感染対策をしっかりと講じ、安心して参加できるようにするとともに、国民の命と健康を守っていく、これが開催に当たつての私の基本的な考え方であります」としか答えないこともあつた（5月10日の衆参同時予算委員会）。

世界は今やワクチン接種が進んでいるとはいへ、ワクチンの効果を減ずる変異株が出ている可能性も指摘されている。菅内閣はワクチン接種を始められることができたことを奇貨として、オリンピック開催を加速した。医療関係者の意見も、「価値観を同じくする国」の新聞に掲載された「スポーツイベントはスーパースペッチャ（多くの人への感染拡大の感染源となる患者）であつてはならぬ」（New York Times 5月11日に掲載された寄稿文）という意見も振り切つた。

医療関係者を含む人々が「人的な能力の限界を超えてしまい、新型コロナウィルスの感染拡大に対応できなくなるから」と抵抗しても、菅内閣は「オリンピックやります」の一言で押し切つてきた。菅

理由を三つ挙げた。「金、金、そして金だ」。これほどあからさまに言わわれてゐるのに、日本政府はそれでも人民の生命と健康を犠牲にして強行することにしたのである。

仄聞するに、菅内閣の見通しは以下のようなものだ。という。野党も医者もイントリも今の所は異論を唱えるが、ワクチンも来ているし、やってしまえば首都の市民まで含めて祭りに熱狂し、日本選手がメダルを取ればはしゃぐだろう。そうすればコロナで沈滞した雰囲気も転換でき、これを手土産に秋まで延ばした総選挙で逃げ切りをはかれる、という計算である。

オリンピックに引っ張り出されるアスリートの対応が割れたこともこの見通しに可能性があることを示唆する。オリンピック開催に異論を唱えた者もあつたが、出ないと自身の競技人生でのチャンスが失われる（ということは人生航路もかなり狂う）ことを心配している選手も当然ある。政府や推進派の人士には、アスリートに対する同情を示しながら、反対派を牽制していくのには都合がいい。何のことはない、コロナで出られなくても、出てコロナにかかる後遺症で苦しんでも選手生命は難しくなるのである（「コロナで死ぬかクビになつて飢えて死ぬか」という非正規労働者の叫びと似ている）。

「出ないでくれ」とは言いにくい。それが人生や生活にダイレクトにかかわるのだから、出たがる選手を非難するのはやりづらい。菅内閣は、有権者には同情しているそぶりを見せつつ（その実はアスリートの人生を人質に取りながらオリンピック開催へと強引に舵を切つたのである）。

政府支持のメディアの中には、「五輪反対は左翼の陰謀」などというものまで現れた（7月2日付産経新聞「正論」欄の門田隆将氏寄稿文）。主要メディアは反対論があることすら顧みなくなつた。会場に観客を入れる（しかもIOC（国際オリンピック委員会）などの関係者や、

動員される小学生などの応援団は別）ことさえ行われることになった（6月20日付『しんぶん赤旗』や、これ以後のメディアにある）。だが、これに対する反対論は全く報道されない。デジタル・トランプオーメーションとかいうものがトレンドであるならば、いつそのこと「オンラインオリンピック」にすれば、感染拡大は防げるのではないか、と思えるのだが、それでは「価値観を共にする国」のテレビ局が納得しないからか、そんなアイディアすら出てこない。

バイデン政権率いるアメリカ合衆国が「戻ってきた」6月のG7サミット（主要7カ国首脳会議）では、列国が日本政府に忖度したのか日本政府が押し倒したのか、英文25頁、日本語版33頁もある共同声明文の末尾数行に「オリンピック開催支持」が書き込まれた。これも、日本政府については「国際社会が支持してくれた」ということになるだろう（あまり言われていないが、最近日本で露骨に敵国扱いされる中国も、オリンピック開催は支持している）。

しかし、支持するということは、最後まで面倒を見ることではない。共同宣言文のかなりの部分は新型コロナウイルス対策である。ワクチン配布や途上国への援助などについて書かれている。しかし宣言文において、日本で変異型ウイルス

が大発生したときには、参加国は日本を支援する、とは一字も書かれていない。オリンピック開催後、日本発の変異ウイルスが大発生してワクチン接種を無力化したようなときには、各国は国境を閉ざして日本人を受け入れないだけのことである。

すでに兆候はある。五輪開催を支持するアメリカ合衆国は、バイデン大統領の開会式出席を否定した（6月29日）。ファーストレディ（日本の基準だと私人のはず）を派遣するという。新型コロナウイルスを、特朗普氏の口真似をするようにして「武漢肺炎」「中国ウイルス」と差別的に呼び続けた日本が、今度は「東京ウイルス」「五輪肺炎」などと呼ばれる可能性を自ら作ることになるかもしれない。最短でも、47都道府県で希望者のワクチン接種が終わるのは12月になる。最も早い山口県と佐賀県で9月だという（日本経済新聞6月28日付）。

それでも、このところ連合会長がしきりと出てきて「立共共闘」に文句をつけ、どういう人脈なのか（筆者は単に、リベルテルメディアのわきの甘さだと考えていい）『週刊金曜日』から『正論』にまで執筆する正体不明の元外交官佐藤優氏は公安調査の長官となかよく『正論』7月号で対談して「日本共産党にだまされると」有権者に呼びかけた。『人新世の「資本論』（集英社新書）のよう、マルクスを取り出して「脱成長」「資本主義脱却」をいう本がバカ売れする時勢に危機感を覚えたのか。野党共闘をどうやってでも「共産党抜き」にするという、かつての「共産党排除」路線を再び引っ張り出してきた。

最近はすっかり国際政治で悪役の似合う、中国の習近平氏は「不忘初心、継続前進」をスローガンとしている。権力に抗する側こそ、この旗印を忘れてはいけない、と考える。敵があきらめないうちは、こちらもあきらめることはできないのだ。

（のば しげる／山口県在住、大学教員）

幸いに、小池百合子都知事が「入院静養」と6月末まで姿をくらましませんでした。小池党である「都民ファシストの会」（書き間違いではないと思う）がどのくらい負けるのかはわからないが、この結果は各政党にとっては一喜一憂すべきものではあれ、次の衆議院議員総選挙へ直接つながるとは筆者は考えていない。現状でも、有権者の中でも最も支持されているのは自民党なのである。内閣支持率と政党支持率は連動しないのだ。

どうしようもない菅政権と相似の鈴木道知事

山崎光男

(C)2021年7月15日 反戦情報編集部

4月から第4波のコロナ禍に見舞われた北海道は、全国でも大阪、東京と同様に医療崩壊に陥る突出した感染者数であった。自宅待機は7千人を超えた。これは、鈴木道知事の判断ミスだ。菅首相の後輩を誇る鈴木知事は首相の意向を忖度し、東京五輪マラソンの札幌での公道上でのテストを中止せず、感染者が増加に転じても厳しい対策を放棄したのが原因である。若さとパフォーマンスで人気の高かつた鈴木知事も支持率がいっきに4割台に下がった。

北海道は、ワクチン接種率が65歳以上、1回目37%と全国最低である（6月24日現在）。道民の不満はおおきい。ワクチンの輸入拠点である成田から遠く、届くまでに時間がかかる、道内が広いので行き渡らせるのに時間がかかるせいだという。よくこんな理由がいえるものだ。すべて前からわかっていたことで、道の対応の鈍さのせいである。

4月から第4波のコロナ禍に見舞われた北海道は、全国でも大阪、東京と同様に医療崩壊に陥る突出した感染者数であった。自宅待機は7千人を超えた。これは、鈴木道知事の判断ミスだ。菅首相の後輩を誇る鈴木知事は首相の意向を忖度し、東京五輪マラソンの札幌での公道上でのテストを中止せず、感染者が増加に転じても厳しい対策を放棄したのが原因である。若さとパフォーマンスで人気の高かつた鈴木知事も支持率

そのなかでも余市町など後志管内5町村が「余市モデル」と呼ばれる連携でワクチン接種を加速させている。5町村で接種対象となる12歳以上の住民は、2万5600人。6月20日現在で接種率は2回目65歳以上が71%、全体で42%まで進み、8月中旬には希望者全員の接種が完了する見通しだ。自治体が工夫すればできる見通しだ。（北海道新聞6月27日付）。

ワクチン接種は遅れても希望者はそのうち行きわたるだろう。問題はコロナ変異株だ。英国由来の「アルファ株」は4月はじめでは、ぼつぼつ程度だったのが今では全国に蔓延し、インド由来の「デルタ株」がすでに上陸しており、感染拡大が見られる。菅政権は、これまで変異株の押さえ込みにことごとく失敗してきた。

東京五輪の膨大な無駄遣いは桁外れだ。2013年の五輪招致時には「コンパクト」を掲げた経費が73億円、ベトナム、イスラエルでもふた

たび感染者が増えている。イスラエルでは最近新たに感染した市民の40%はワクチン接種済みだという。これもデルタ株である。ワクチン投与が先行した米英でも接種率が5割を超えておらず集団免疫は実現していない。感染収束による緩みのほか、副作用への懸念、若年層らのワクチンへの嫌悪感が背景にあるという。

デルタ株はワクチン1回では不十分で、第4波の悲惨さをもたらしたアルファ株より感染拡大が速いという。変異株はデルタ株で終わりになるわけではなかろう。東京五輪で出来たウガンダ選手団に陽性者が出たのに、検疫所と移動先の大坂との連携が不十分で他の選手の調査もなし、あとになつてさらに1名の陽性が見つかつた。

「やまざき みつお／北海道在住、元公務員）

40億円、裏では国際オリンピック委員会（IOC）委員への賄賂攻勢

が動いていたという。延期された今年は、2・2倍の1兆6440億円に達している。税金となれば使い放題というわけだ。ちまちまと生活費を節約している私達にとつては許しがたい大浪費だ。そのうえ大会経費以外に東京以外の開催地が負担する関連費もある。札幌開催のマラソン、競歩などでは、道が10億3200万円、札幌市が8億1300万円を計上している。

何年も前から五輪の商業化を進めることで、IOCが巨額の利益を優先している本質が、コロナ禍のなかでますます明らかになつてている。緊急事態宣言下でも東京五輪を開くのかと問われ、傲慢に「イエス」と答えたコーン、「アルマゲドン（世界最終戦争）でもない限り東京五輪は実施できる」と言ったパウンドのようなIOC幹部の言動を批判できない日本の五輪関係者も堕落しきつてはいる。まったくどうしようもない菅政権だ。鈴木北海道知事も政権と相似である。

（やまざき みつお／北海道在住、元公務員）

4月から第4波のコロナ禍に見舞われた北海道は、全国でも大阪、東京と同様に医療崩壊に陥る突出した感染者数であった。自宅待機は7千人を超えた。これは、鈴木道知事の判断ミスだ。菅首相の後輩を誇る鈴木知事は首相の意向を忖度し、東京五輪マラソンの札幌での公道上でのテストを中止せず、感染者が増加に転じても厳しい対策を放棄したのが原因である。若さとパフォーマンスで人気の高かつた鈴木知事も支持率がいっきに4割台に下がった。

東京五輪の膨大な無駄遣いは桁外れだ。2013年の五輪招致時には「コンパクト」を掲げた経費が73億円、ベトナム、イスラエルでもふた

検定済み歴史教科書記述に改変の政治的圧力！

—萩生田大臣先頭に文科省あげて—

高嶋伸欣

今年2021年夏は高校の新科目「歴史総合」教科書の内容が明らかにされ、その採択に関心が集中するはずだった。そこへ自由社版中学歴史教科書の1年遅れの検定合格により、採択やり直しという話が飛び込んできた。それも、やり直し採択をするかどうかは、教育委員会など採択権者の「自主的」判断次第というものの。どさくさ紛れに自由社版だけでなく育鵬社版の採択がされることもありうると、各地では昨年同様に緊張が高まっている。コロナ禍の今、これだけでも煩わしいのに、さらにもう一件、歴史教育に政治的圧力を加える「事件」が発生した。

検定済みの教科書の記述改変を迫る圧力。しかも萩生田光一文部科学書会社・執筆者に迫っているもので、悪質極まりない。だが「従軍慰安婦」

と「徴用工」の記述のためかマスコミの関心は概して薄く、報道はありません。

●標的にされた「いわゆる従軍慰安婦」記述

発端は山川出版中学歴史教科書に「いわゆる従軍慰安婦」記述が登場したのを、藤岡信勝「新しい歴史教科書をつくる会」が不当と騒ぎ立てていることにある。同会は文科大臣宛の「申し入れ書」で、記述削除の訂正申請の勧告権限を発動するよう要請。教科書課は要請に応じられないとの素つ気ない回答を繰り返したが、3回目の「回答書」(4月6日)には次のように加筆していた。

「今後」「新たな政府見解が出されるとといったことがあつた場合には、そうした状況を踏まえ、適切に対応していきたいと考えております」と。

知恵を受けられた側の「つくる会」に呼応する形で、日本維新的会の馬場伸幸幹事長が「従軍慰安婦」等の用語に関する『質問主意書』を4月16日に提出。同27日に閣議決定を経て『答弁書』が出された。

連休明けの5月10日、衆議院予算委員会で問われ、菅義偉首相はどのようにするかは文科省が「適切に対応すると承知している」と答弁。それを同11日付の『産経新聞』が「従軍慰安婦」の教科書記述認めず」と歪曲して第一面中央で伝えた。同紙の関与が鮮明となつた。

彼らが「政府の統一的見解」に該当するとしている『答弁書』は「政府としては」「単に『慰安婦』といふ用語を用いることが適切と考えて」おり、近年、これを用いているところです」と、政府内官庁用語としての見解を示したものに過ぎない。

もともと、教科書は官庁用語で表記しなければならないということはない。例えば、日米安保条約では、米軍の基地を「施設及び区域」と表現しているが、教科書では「基地」と表記している。検定で条文通りの表記を指示したこともあるが、あまりに非常識と批判され、指示は事実

解条項」が適用される、と強調した。同条項とは「閣議決定その他の方法により示された政府の統一的な見解又は最高裁判所の判例が存在する場合には、それに基づいた記述がされていること」というだけのもの。

上撤回された。方位の表記でも官庁は「北東アジア課」「南西アジア課」など南北を東西の上に置くが、東北新幹線や西南戦争など定着しているものの教科書表記は認めている。政府の統一的見解がそのまま「政府見解条項」にいう「政府の統一的見解の存在」に当たるのではない。

その上、同条項では「最高裁の判例」を「統一的見解」と同等に位置づけている。今回の場合も、5月26日の衆議院文科委員会で畠野君枝議員（共産党）が、最高裁判決（2004年11月29日）に「軍隊慰安婦」の表記が用いられている事実を指摘した。この事実を、「答弁書」を作成した内閣府や文科大臣らのいずれも「承知していない」旨答弁し、審議はその先に進めない事態となつた。

このように、先の『答弁書』と「政府見解条項」を結び付けて、教科書記述に枠をはめるには無理がある。ましてや、検定済み中学歴史教科書（4月から全国で使用中）や高校「歴史総合」の見本（採択用）の記述の訂正申請を促す法的根拠はどこにもない。だが、教科書課は5月10日と12日の国会審議に基づき、関連教科書の発行者（出版社）を招集した「臨時

説明会」を5月18日にWEB形式で開催した（以下「5・18WEB会議」）。会議の趣旨は「国会審議の展開に拠つて、訂正申請が考慮されるべき事態であることを説明するための情報提供」であった、と教科書課は後に説明している。

訂正申請は通例では、編集実務者と執筆者が対応する。だが、同会議では「編集担当役員」の出席が指定された。同会議は萩生田大臣と文科省の意向に合わせて訂正申請をするかどうかが、会社の命運を左右するほどの大変な事であるかのように印象付け、脅迫観念同然の心理的負担を派生させるものであった。

萩生田大臣が「政府見解条項」を

政府見解のみ記述させる規定と解釈している（以下「萩生田解釈」）、と自ら明かしたことになる。だが同条項は「政府の統一的見解とは異なる見解を排除するという趣旨でない」（以下「確定定義」）。このことは、同条項を2014年（平成26年）に策定し、官報に告示した下村博文・文科大臣（当時）や文科省官僚が繰り返し明言している。

一方で第三次家永教科書裁判の最高裁判決（1997年8月29日）は、「行政行為における法規の恣意的解釈と運用は職権乱用で違法である」という法治主義の大原則の下、検定

す」などと。前出の「政府見解条項」を字面通りに解釈すれば、このようないいふことは、歴史的に確認できていることについて政府として認めただものについてのみ教科書に記述したものについてのみ教科書に記述して、その後正常化をしてきたというふうに思っていたんですけども、今回、久しぶりにまたこういう記述がでてきた」と。

だが、この不当、違法な状況は放置されたままとなっている。教科書課は、「確定定義」に言及した議事録を教科書発行者にWEBで、6月17日に送り付けたことで、是正措置を実行せたかの如くしている。

そこで横浜市の市民団体「教科書・市民フォーラム・運営委員会」は、萩生田大臣宛「申し入れ書」を6月28日付けて提出した。内容は萩生田大臣自身による一連の国会発言の訂正・謝罪と「5・18WEB会議」等の関連業務の停止措置の省内外への徹底とを求めるもので、回答は2週間内を目途とするよう記してある。

本件は、国会やマスコミが本来の役割を果たせていない時に、市民が不公正状況をいかに是正できるかの試金石であり、回答が注目される。

（たかしま のぶよし／琉球大学
名譽教授）

に4件の違法行為があったとし、40万円の賠償を国に命じている。

以上の分析から、「萩生田解釈」

は法規の恣意的便宜的な解釈であり、萩生田大臣の同解釈に基づいた文科省職員への指揮監督による「5・

II 6・23 慰霊の日を迎えて II

沖縄戦の慰霊とは、辺野古新基地を造らないこと

2021/06/27 沖本裕司

● 慰霊の日は沖縄県だけの公休日

沖縄戦終了から76年を迎えた6月23日・慰霊の日。平和祈念公園に設置された平和の礎にはこの日も朝早くから、多くの遺族の方が足を運び、花束や飲み物、ヒラウコー（平御香）をそれぞれの刻銘板の前にお供えした。朝鮮人犠牲者464人の名前が刻まれている刻銘板の前でも、赤い実をつけたトウガラシや飲み物と共に「日本の戦争で犠牲になつた朝鮮人の皆さん、その死を無駄にしない」とのメッセージが置かれた。

ひめゆりの塔、白梅の塔、一中健児の塔など学徒隊や八重山の戦争マラリア犠牲者慰霊之塔など、各地の慰霊塔には家族連れで訪れる追悼の人波が絶えなかつた。

慰霊の日が制定されたのは、米軍政下の1961年。琉球政府立法院は「住民の祝祭日に関する立法案」にいくつかの祝祭日の一つとして、第32軍の牛島司令

官らが自死した日とされる6月22日を慰霊の日と定めた。その後1965年になつて、6月23日に変更された。当時の立法院議員・古堅実吉さんによると「参考人の証言で決まった。議論を重ねたわけではない」と言われるが、今日まで定着してきた。

コロナで行動を制限されながらも、今年も、沖縄タイムス・琉球新報・各テレビ局による沖縄戦の体験を取り上げた特集・企画記事や番組、小中学校での平和教育、ガマや戦跡めぐり、平和祈念資料館やひめゆり平和祈念資料館での展示・講話などがおこなわれ、沖縄戦体験の継承に努力がはらわれた。

今年、平和の礎には41人が新たに追加刻銘され、刻銘者数は合計24万1632人、うち沖縄県民は14万9584人に上る。軍人軍属を含む県外都道府県の死者数が7万7456人であるので、沖縄の死者数はその2倍近くに達することになる。本土防衛の盾として、戦争を長引かせるだけの持久戦を強いられた戦場の住

民がいかに甚大な被害を被つたかを示すものだ。

そして沖縄は今また、広大な米軍基地の存在に加えて、米海兵隊の辺野古新基地建設、琉球列島の島々での自衛隊配備によって、戦争の最前線基地とされているとしている。

日米両政府は沖縄の軍事利用を止めよ。県民投票で示された新基地反対！埋め立てストップ！との県民の総意を踏みにじつて強行される辺野古新基地建設は、沖縄に対する軽視・蔑視・差別に貫かれている。日本の国民は自国政府の犯罪を止めなければならない。

玉城デニー知事は平和宣言で、「国土面積の約0・6%の沖縄県に米軍専用施設面積の約70・3%が集中し続けていることにより、騒音、環境問題、米軍関係の事件・事故が後を絶たない状況にあります。……日米両政府は、県を含めた積極的な協議の場を作つていただき、辺野古新基地建設が唯一の解決策という考えにとらわれることなく、『新たな在沖米軍の整理・縮小のためのロードマップ』の作成と、目に見える形で沖縄の過重な基地負担の解消を図つていただくことを要望します」と述べた。

県遺族連合会の宮城篤正会長は、「いまだに遺骨、不発弾が発見され、沖縄の戦後は終わっていない」と指摘し、「二度と戦没者遺族を出さない」という強い信念をもつてこれからも活動を続けていく」と結んだ。宮城さんは、今年4月28日のインタビューでも、「南部に限らず沖縄は遺骨だらけ。沖縄の土を辺野古埋め立てに使うのを認めたくない」と述べている。これはまさに遺族全体の気持

（玉城知事が「辺野古唯一」に異議）
慰霊の日の正午から開かれた沖縄全戦没者追悼式は、通常数千人規模の集まりとなつてはいるが、今年は規模を大幅に縮小して各団体の代表等36人だけの参列となつた。

まだに遺骨、不発弾が発見され、沖縄の戦後は終わっていない」と指摘し、「二度と戦没者遺族を出さない」という強い信念をもつてこれからも活動を続けていく」と結んだ。宮城さんは、今年4月28日のインタビューでも、「南部に限らず沖縄は遺骨だらけ。沖縄の土を辺野古埋め立てに使うのを認めたくない」と述べている。これはまさに遺族全体の気持

南部戦跡の死者の魂よび覚ます

—6・23沖縄「慰霊の日」の少女の詩—

佐藤定夫

「響きあう『みるく世の謳』と
『けーし風』110号」

6月23日は沖縄「慰霊の日」。コロナ禍の緊急事態宣言下で、23日の県主催の追悼式は例年より縮小され、遺族の手による慰靈祭も相次いで中止されたと報じられている。

県の追悼式で上原美春さん（13歳、宮古島市立西部中学2年）の平和の詩『み

るく世（ゆ）の謳（うた）』が朗読され、テレビでも新聞でもその全文が伝えられた。

生まれたばかりの姪（めい）の生命のいとなみをたたえ、多くの生命が失われた沖縄戦に想いを馳せ、「みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」と結ぶ、感動的な長詩です。

県内の小中高生ら計1500作品から選ばれた。中学生の書いたものとは思えないような、レベルの高い詩です。この

10年ほど、11歳でタリバーンを告発したマララ・ユスフザイさん（パキスタン）とか、15歳の時に「気候のための学校ストライキ」をよびかけたグレタ・トゥーナベリさん（スウェーデン）とか、早熟で天才的な少女を見てきた。沖縄にもついにこういう少女が出現した。善き哉！



平和の礎（全学徒隊の碑）

母の子守歌が空襲警報に消された出来事で天辺に現れたばかりの命が消されていく瞬間にこういう少女が出現した。善き哉！

「この空はきつと覚えている

母の子守歌が空襲警報に消された出来事を

住民は日本軍によって、避難している壕から追い出され、食料を奪われ、口封じ要された。「まさにありつけの地獄を集めたような戦場になったのが、今政府が土砂を採取しようとしている、この地域であります」（赤嶺政賢・衆議院議員の2月衆院予算委員会での質問）。

（筆者注：沖縄戦の沖縄県民犠牲者数について。赤嶺議員の引用した数字は、1950年沖縄県援護課が発表した数字。沖縄の軍人軍属、住民を合わせて12万余の大の被害者となつた沖縄の住民の、恐怖を、怒りを、無念を記憶している。

このくだりを聞きながら（読みながら）、沖縄の地域誌『けーし風』110号（季刊・2021年4月号）の特集「辺野古新基地の土砂問題を追う」を思い起さずにはいられません。

住民の犠牲者9万4千人の、約半数が南部戦跡で亡くなつた。住民約20万人が避難していた南部に、首里城の地下にあつた第32軍司令部が撤退してきたからです。

その南部戦跡から、無数の遺骨がいま眠り、数万の住民の血を吸つた土を掘り起こし、あろうことか辺野古新基地の埋め立て工事に使うという。これほどの死者への冒涜、沖縄県民に対する侮辱があろうか。

遺族のひとり米本わか子さんは、4月21日衆議院第一議員会館で行われた防衛省・厚生労働省交渉で「戦争で殺され、採掘業者に殺され、辺野古の海に埋められ、どうして三度も殺されなくてはならないんですか！」と涙ながらに訴えた。

ガマフヤー具志堅隆松さんは「小さな骨や薄い骨は、土砂に溶け込んでいます。骨だけでなく、血も肉も染み込んだ土地です。そういう場所は手を付けずに、慰霊の場所、平和のための学習の場所として環境保全」するしかないのだと訴えた。

具志堅さんは、特集のメインの対談で「骨も魂も家族のもとへ返してください」と言う。戦没者の魂を、ほんらい被告席にいるべき政府に祀らせてはならない。國まかせ、國まかせではなく、遺族・県民が慰靈の主体になるべきと主張する。

『けーし風』110号のすべての記事が、「踏みしめるこの土は覚えている」と語っている。

上原さんは謳う。

「いま摩文仁（まぶに）の丘に立ち私は歌いたい
澄んだ酸素を肺いっぱいにとりこみ
今日生きている喜びを震える声帯に感じて

決意の声高らかに

みると世ぬなうらば世や直れ
平和な世界は私たちがつくるのだ」



祖父が三線を弾いて歌う宮古島民謡『豊年の歌』が大好きだという上原さんは、

その一節「みるく世ぬなうらば世や直れ」（平和の世になれば暮らしが良くなつていくよ）を効果的に詩のなかにとりこんだ。「みるく世」は漢字で書けば「弥勒世」、弥勒様があらわれた平和な世、ユートピア、桃源郷という意味。

『豊年の歌』は「世や直れ」ということばがくり返される民謡ですが「世直し」といったストレートな意味ではなく、「豊作だったらしいね」「うまくいくといいね」といった「自分達のまわりの生活が良くなりますように」との願いを込めた歌と解釈されています。

しかし、上原さんは、世直しの意味を

とばがくり返される民謡ですが「世直し」といったストレートな意味ではなく、「豊作だったらしいね」「うまくいくといいね」といった「自分達のまわりの生活が良くなりますように」との願いを込めた歌と解釈されています。

慰靈の主体は国ではなく、遺族であり、県民であるべきという具志堅さんの訴えと、「みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」という上原さんの詩の最後の一句は、みごとに響きあっています。

南部戦跡の土を辺野古新基地の埋め立てに使おうとしている犯人・菅義偉は、コソ泥のような目つきで「沖縄の基地負担の軽減のためにできることはなんでもやる」というメッセージを送った。日本語の使い方が、まるでちがっている。安倍晋三のやつてきしたことのすべては「沖縄の基地負担を軽減させないために、できることはなんでもやる」だった。閉会したばかりの国会で、最終日の真夜中に成立させた「重要土地規制法案」は、沖縄の反基地闘争を黙らせるための法案です。

みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」

具志堅さんが沖縄県庁前で抗議のハントに入ったとき、元山仁士郎さんなど若者6人が「緊急ステートメント」を発した（賛同する若者70名）。南部戦跡での土砂採掘計画の中止などの要求にくわえて、提言として「菅首相をはじめとする日本政府関係者は、沖縄の歴史・戦争から現在まで続く諸問題を学び、それらの根本的な解決に向けて動くこと」と記した。沖縄の若者から、日本の首相に対する痛烈な叱責です（『けーし風』渡瀬夏彦レポート）。

なきげないビデオ映像を見ながら、沖縄の若者たちの叱責を思い浮かべました。

上原美春さんと菅義偉の、あまりにも鮮やかな対比。忘れられない慰靈の日です。

「みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」という少女の宣言に、乾杯。

『けーし風』新沖縄フォーラム発行、500円。問い合わせ「BOOKS Man groove」<http://mangroove.shop-project/>

こめて「平和な世界は私たちがつくるのだと」謳っている。

詩の全体は次のように結ばれています。

「今、私たちの中にある暗黒の過去を溶かすことなく、あの過ちに再び身を投じることなく繋ぎ続けたい

みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」

慰靈の主体は国ではなく、遺族であり、県民であるべきという具志堅さんの訴えと、「みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」という上原さんの詩の最後の一句は、みごとに響きあっています。

沖縄の歴史はわからない。日米合意の辺野古が唯一というのが私のすべてだ」と言い放った愚か者です。

具志堅さんが沖縄県庁前で抗議のハントに入ったとき、元山仁士郎さんなど若者6人が「緊急ステートメント」を発した（賛同する若者70名）。南部戦跡での土砂採掘計画の中止などの要求にくわえて、提言として「菅首相をはじめとする日本政府関係者は、沖縄の歴史・戦争から現在まで続く諸問題を学び、それらの根本的な解決に向けて動くこと」と記した。沖縄の若者から、日本の首相に対する痛烈な叱責です（『けーし風』渡瀬夏彦レポート）。

なきげないビデオ映像を見ながら、沖縄の若者たちの叱責を思い浮かべました。

上原美春さんと菅義偉の、あまりにも鮮やかな対比。忘れられない慰靈の日です。

「みるく世（ゆ）を創るのはここにいるわたし達だ」という少女の宣言に、乾杯。

『けーし風』新沖縄フォーラム発行、500円。問い合わせ「BOOKS Man groove」<http://mangroove.shop-project/>

（おとう むだお／ブログ「呆け天残日録」を運営、6月25日の記事より転載）

（編注：写真は沖本裕司氏提供）

岩国・福田市長による3つの市政私物化

本田 博利

▼岩国での市政私物化の3点セット

「権力は腐敗する。絶対的権力は絶対に腐敗する」（アクトン）

7年8カ月に及んだ安倍晋三政権は、行政権力の「私物化」を極め、とりわけ「モリ・カケ・桜」の3点セットは、未解決のまま菅義偉政権に引き継がれた。

山口県岩国市でも、4期目に入つた福田良彦市長の「福田の福田による福田のための市政」が進められる中で、同様の行政権力の私物化＝市政の「私政」化の3点セットが明らかになつた。

米軍岩国基地は、2018年3月末の米軍厚木基地（神奈川県）からの空母艦載機約60機の移駐完了によって、基地機能が飛躍的に強化された。本年3月に市内尾津町では「大声を出さないと会話できない」⁷⁰デ

シベル以上の騒音が、12年の滑走路沖合移設以降の月別で最多の174回記録された。土・日曜日を除いた平日の平均だと、1日70回にもなる。

こうした市民生活上の脅威にもかかわらず、福田市政の基本は一貫して「基地と共存するまちづくり」である。いくら軍事機能が強化（F35B戦闘機の追加配備、F22など空軍機の飛来による三軍一体化など）され爆音が激増しようとも、日本政府から「カネ」を引き出しさえすれば米軍に異を唱えることは一切ない。

3つの市政の私物化は、このような政治姿勢の中で図らずも露呈したものが、沖縄公務出張旅費裁判の過程や議会での質問、米軍住宅反対で始まつた、毎月3回の「愛宕山見守りの集い」などで広く知られるようになつた。

▼私物化1—公費による宜野湾市長選応援

福田市長は、2018年9月に村田光洋審議監ら職員3人を連れて、公務出張を行つた。2日目の朝には審議監とともに宜野湾市長選挙の松川正則候補（現市長）の出陣式に参加し、選挙カー上で応援演説を行つた。典型的な行政の「私物化」である。

これに対して翌年11月に、両名の沖縄出張は公務とは関係のない特定候補の応援という私的な用事であるとして、岩国市民8人が旅費の返還を求める住民訴訟を山口地裁に提起

や訪問先の設定、審議監と松川陣営のやりとり、旅費支出手続きの異常性など多数の争点が明らかになつた。

筆者は意見書を提出して、基地対策部長を務めた村田氏が3度の定年延長のあげく、さらに市長の忠実な部下であり続けることを可能にした特別職の「審議監指定条例」が、地方公務員法の特別秘書の職に照らして制定上、運用上ともに明白に違法であり、したがつて氏の出陣式への参加とその諸準備への従事は当然違法であると新たに争点化した。

次回の7月19日は、村田審議監他職員1名の証人尋問が実施され、裁判は大きなヤマ場を迎える。

▼私物化2—航空券マイル

裁判（山口格之裁判長）は、3回

の弁論準備を経て6回の口頭弁論が開かれ、審理を通じて出張の必要性や緊急性、お忍びの事情、出張の時期

つまりタダ券3枚を得た。同一航路を約10往復すれば、1枚もらえる計算となる。住民訴訟で、出張した4人のうち村田審議監に限つてサンデン交通発行の航空券購入の領収証が「紛失のため再発行」となつている見逃せない事実があり、筆者の経験からも特典航空券を利用したのではないかとの当然の疑惑が生じた。

通常の搭乗券か特典航空券かは、券にその旨の表記があるのですぐ分かる。そのため筆者は、審議監が航空機を利用した出張の搭乗券を情報公開請求したところ、5年間で110回搭乗し、そのうち搭乗券が開示されたのは海外出張でのただの1枚で、その他はすべて「不存在」とされた。

市の旅費事務の手引は、航空機を利用した出張の場合、旅行後に「領收証及び搭乗券」を添付して精算を行うことを義務付けている。また、職員課長通知は、「公務出張で一定のマイルが貯まつた場合、貯まつたマイルで特典航空券を利用するよう推奨し、その場合には航空運賃を支給しない」と定める。マイルの原資は税金なので当然である。私的にマイルでタダ券を得ればネコババであり、横領罪も成立する。外務省職員が同様の方

法で懲戒処分を受けた事例もある。筆者は、搭乗券はないとする不存算となる。住民訴訟で、出張した4人のうち村田審議監に限つてサンデン交通発行の航空券購入の領収証が「紛失のため再発行」となつている見逃せない事実があり、筆者の経験からも特典航空券を利用したのではないかとの当然の疑惑が生じた。

通常の搭乗券か特典航空券かは、券にその旨の表記があるのですぐ分かる。そのため筆者は、審議監が航空機を利用した出張の搭乗券を情報公開請求したところ、5年間で110回搭乗し、そのうち搭乗券が開示さ

れたのは海外出張でのただの1枚で、その他はすべて「不存在」とされた。

市の旅費事務の手引は、航空機を利用した出張の場合、旅行後に「領收証及び搭乗券」を添付して精算を行

うことを義務付けている。また、職員

課長通知は、「公務出張で一定のマイルが貯まつた場合、貯まつたマイルで特典航空券を利用するよう推奨し、その場合には航空運賃を支給しない」と定める。マイルの原資は税金なので当然である。私的にマイルでタダ券を得ればネコババであり、横領罪も成立する。外務省職員が同様の方

在決定に対し審査請求を行い、こ

れから弁護士など法律専門家から成

る情報公開審査会での審査が始まる。

この3月岩国市議会では、大西明

子議員の質問に対し、福田市長と村

田審議監とともに、出張でマイルが貯

まつても通知どおりに不支給、つま

り出張旅費を辞退することなく受け

続けていたことが判明した。これも

典型的な行政の「私物化」である。

2015年度以降、市長の航空機

利用の出張での搭乗回数は126回、

審議監は114回にのぼる。両名と

も、マイルを私的に使用したことは

ないと主張するが、マイルが使える

のは3年間に限られ、通常、貯まつた

マイルを「流す」ことは考えられない。

岩国錦帯橋空港が開港した12年以

降だと搭乗回数はさらに増える。こ

の10年間貯まつたマイルを両名がどう

う処理していたかについて、議会そ

して審査会においてもネコババの疑

惑が更に究明されなければならない。

法で懲戒処分を受けた事例もある。

筆者は、搭乗券はないとする不存

算となる。住民訴訟で、出張した4

人のうち村田審議監に限つてサンデ

ン交通発行の航空券購入の領収証が

「紛失のため再発行」となつている

見逃せない事実があり、筆者の経験

からも特典航空券を利用したのでは

ないかとの当然の疑惑が生じた。

通常の搭乗券か特典航空券かは、

券にその旨の表記があるのですぐ分

かる。そのため筆者は、審議監が航空

機を利用した出張の搭乗券を情報公

開請求したところ、5年間で110

回搭乗し、そのうち搭乗券が開示さ

れたのは海外出張でのただの1枚で、

その他はすべて「不存在」とされた。

市の旅費事務の手引は、航空機を

利用した出張の場合、旅行後に「領收

証及び搭乗券」を添付して精算を行

うことを義務付けている。また、職員

課長通知は、「公務出張で一定のマイルが貯まつた場合、貯まつたマイルで特典航空券を利用するよう推奨し、その場合には航空運賃を支給しない」と定める。マイルの原資は税金なので当然である。私的にマイルでタダ券を得ればネコババであり、横領罪も成立する。外務省職員が同様の方

在決定に対し審査請求を行い、こ

れから弁護士など法律専門家から成

る情報公開審査会での審査が始まる。

この3月岩国市議会では、大西明

子議員の質問に対し、福田市長と村

田審議監とともに、出張でマイルが貯

まつても通知どおりに不支給、つま

り出張旅費を辞退することなく受け

続けていたことが判明した。これも

典型的な行政の「私物化」である。

2015年度以降、市長の航空機

利用の出張での搭乗回数は126回、

審議監は114回にのぼる。両名と

も、マイルを私的に使用したことは

ないと主張するが、マイルが使える

のは3年間に限られ、通常、貯まつた

マイルを「流す」ことは考えられない。

岩国錦帯橋空港が開港した12年以

降だと搭乗回数はさらに増える。こ

の10年間貯まつたマイルを両名がどう

う処理していたかについて、議会そ

して審査会においてもネコババの疑

惑が更に究明されなければならない。

2015年度以降、市長の航空機

利用の出張での搭乗回数は126回、

審議監は114回にのぼる。両名と

も、マイルを私的に使用したことは

ないと主張するが、マイルが使える

のは3年間に限られ、通常、貯まつた

マイルを「流す」ことは考えられない。

岩国錦帯橋空港が開港した12年以

降だと搭乗回数はさらに増える。こ

の10年間貯まつたマイルを両名がどう

う処理していたかについて、議会そ

して審査会においてもネコババの疑

惑が更に究明されなければならない。

▼私物化3——ふくろう公園

別名「福田公園」の命名

「愛宕山見守りの集い」は毎月1・

2015年度以降、市長の航空機

利用の出張での搭乗回数は126回、

審議監は114回にのぼる。両名と

も、マイルを私的に使用したことは

ないと主張するが、マイルが使える

のは3年間に限られ、通常、貯まつた

マイルを「流す」ことは考えられない。

岩国錦帯橋空港が開港した12年以

降だと搭乗回数はさらに増える。こ

の10年間貯まつたマイルを両名がどう

う処理していたかについて、議会そ

して審査会においてもネコババの疑

惑が更に究明されなければならない。

これまでのところ、一片の「告示」で定めたことに根本の問題がある。これ

は、ふるさと納税制度から泉佐野市

を法律によらずに告示で排除したの

は違法として国（総務省）が最高裁

で敗訴したのと同様であり、議会は

公園の名称の決定権を排除され、福

田市長の一存で決めた。そのため、

2009年の遊具製造会社への提案

募集段階でモチーフはすでに「ふく

ろう公園」としてオーブンす

るらしいが、愛宕山にフクロウが住

んでいたという話は聞いたことがな

いということだつた。愛宕山開発ア

セス書でも、29種の生息鳥類に入っ

ていないので、

月21日号のコラム「誰が決めたか」「ふ

くろう公園」で「公募もされなかつたし、ゆえんも分からぬ。ゲスの

勘織りかもしれないが、市長の福か

らもらつたのだろうと思うことにつ

る」との説が登場するに及び、3月

23日にオープンした現在では、「福田

公園」の別名が定着している。

そもそも公園は、地方自治法上の

「公の施設」であり、学校や公民館、

スポーツ施設などと同様にその名称

は議会の議決を得て「条例」で定め

ています。

（ほんだ ひろかず／

元愛媛大学教授）

山口県による海上ボーリング調査許可を糾弾

—中国電力の上関原発計画—

中嶋光雄

山口県は6月11日、中国電力が上関原発（同県上関町）建設に向けて申請した海上ボーリング調査の必要性を認め、調査予定海域の占用許可を交付した。中電は、原発の新規制基準に基づく原子炉設置審査に備えたものとしている。過去2度の調査は、同町祝島の漁民の漁をしながらの監視活動によって実施できず、許可は3度目。

▼ボーリング調査に正当な理由ない

このボーリング調査許可について、筆者は6月30日、山口県議会で「原子力規制員会は、『我々は中国電力に調査をやれとは一切言つてない。単純に中国電力の意思で進めている』と言つてている。県は、調査の必要性について、何を根拠に正的な理由と判断したのか」と質問。県は「原発の安全審査に万全を期すためとの説明に合理性があり、条例の許可基準に適合しているので許可した」と答弁した。

そこで、筆者が「福島原発事故以降、国は、上関は新設なので、新規原発の新規制基準は検討すらしていない」とさら

に追及すると、県は「一般海域の占用許可是原子炉設置許可とは法体系を別にしているので、新規制基準が上関原発に適用されるかどうかは、条例の審査の対象ではない」とし、何法に基づいての「安全審査か」については答えられなかつた。

▼山口県漁協の同意書添付で良しとする欺瞞

海域占用許可申請書には「利害関係人の同意書」を添付することが義務づけられていることについて、県は「排他・独占的な権利である漁業権を有する山口県漁協の同意書が添付されている」と答弁。筆者が、祝島漁民（ないし県漁協祝島支店）の同意書が含まれていないことを問題視し、質問すると、県は何も答えない。

この利害関係人に関して、筆者が国土交渉の担当部署に電話照会したところ、①工事・調査で漁業が制限される場合に制限補償が必要なこと、②国や自治体が事業主体の場合のみならず、電力会社が事業主体の場合にも「公共用地の取得に伴う損失補償基準要綱」が適用になる

こと、要綱2条で「権利」と認められて「許可漁業・自由漁業者」（祝島漁民の漁業）に同意を得ず、全く補償しない見解だつた。そこで、「補償しなければならない漁民が利害関係人ではないとするのは、ごまかし以外の何物でもない」と筆者が追及すると、県はまた何も答えない。

また、2019年10月8日付の1度目の中電の許可申請書において、利害関係人同意書は、県漁協と四代支店（上関町）の代表者の連名だつたのが、その後、県漁協のみになつていて、「四代支店の同意は不要と県が指導したのか。そうであれば、その根拠は？」と質問すると、県は答えることができず、前記の答弁を繰り返すのみだつた。

正しくは、「漁業を妨害された時にはじめて妨害排除を請求できる。漁業を営む時に排除を請求できる権利＝物権的権利と言うことだから、物権的権利と独占排他的な権利とは全く違う。漁業権は、『場所』を保護する権利ではなく『漁業行為』を保護する権利である」ということであつて、怒りを禁じえなかつた。

中電は6月29日、海上ボーリング調査の準備作業を始めようとしたが、祝島の漁民の漁をしながらの監視活動により実施できなかつた。7月9日現在、準備作業に着手できていない。

県が利害関係人を「排他・独占的権利である漁業権」を持つ者具体的には共同漁業権を持つ者（免許を持つ県漁協）に限定している嘘を、筆者は県水産振興（なかしまみつお／山口県議会議員）

課がHPで公開している「共同漁業権と区画漁業権および定置漁業権が併存している図」を示して質問した。県は、「漁業権については、排他的に特定の漁業を営む権利である共同漁業権と区画漁業権が、関係者の調整が図られた上で、一定の漁場内に重ねて設定される場合がある。したがつて、共同漁業権が定置漁業権や区画漁業権に対して排他性を持たないということではない。許可漁業、自由漁業に対する共同漁業権の排他性について、共同漁業権は、物権的請求権を有していることから、許可漁業や自由漁業に対する操業において漁業権侵害行為があれば、排除し得る」と、すつとぼけのごまかし答弁を繰り返した。

アーサー・ビナードの『ありえない！』話

— 東京五輪開催による休日移動 —

林伸一



ビナード氏翻訳絵本『ありえない！』

詩人であり絵本作家でもあるアーサー・ビナード氏を招いて朗読会を開催したところ、ちょうど8月11日の「山の日」が都合がいいということになつた。早速、会場を予約しに行つたところ、同日は休日でもないし、「山の日」は8月8日に変更されているとのことであつた。

カレンダーや手帳を見て、8月11日が「山の日」で休日であることを確認していたので、「そんなバカな！」「ありえない！」と思つた。調べてみると7月19日の「海の日」が東京五輪開会式の前日の7月22日に、10種類以上のカレンダーをチェックしたが、みな前記の休日の変更は示されていない。地区のごみ収集力レンダーダだけは、変更された休日が示されている。東京五輪が開催されるか否か、無観客か否かに議論が集中して、「海の日」「山の日」「スポーツの日」の変更は、ほとんど話題になつていない。このままでは、カレンダー通りにイベントが組まれたり、仕事の予定を入れたりと混乱が生じることが予想されると思い、朝日新聞の「声」欄に警鐘のため投稿したことろ6月22日に掲載された。

「スポーツの日」も元は「体育の日」

として1964年の東京五輪の開会式の日を記念して66年に制定された。当時は、涼しい秋に五輪が開催されていたのであるが、近年は五輪のスパンサーアリの米国テレビ局からの圧力で、夏の開催が常態化している。五輪選手のことを第一に考えるなら、熱中症の心配のある真夏の開催から秋の開催に戻して実施する方がいい。特にコロナ禍で熱中症と似た症状を示す新型コロナの感染を区別するためにも10月開催が望ましい。

ビナード著『そもそもオリンピック』が問い合わせる、そもそも誰のための五輪かを再度考えてみる必要がある。政府の都合で、昨年は8月10日に、今年は8月8日と動かされた「山の日」は、今後8月11日に固定してほしい。風林火山を引くまでもなく「動かすこと山のごとし」で「山の日」は軽々に動かさないでほしい。といふのも、昨年8月11日に「アーサー・

月11日の「スポーツの日」が7月23日開会式の日に移動されている。同様に8月11日「山の日」が、東京五輪閉会式の8月8日に変更になり、9月の月曜が振替休日になつた。昨年11月末の国会で決まったので、カレンダー印刷に間に合わなかつたのだ。

三上寛・文、黒田征太郎・絵の『Heartbloom Hill』の英語訳をビナード氏に朗読してもらう。また、三上寛・文、黒田征太郎・絵の『ウトウとクイナ』も紹介する。

ビナード氏の眼を通して見た不思議で矛盾だらけの日本社会の「ありえない話！」に期待したい。

石丸義臣によるギターの弾き語り「はじまりの日」などを聞くことができる。参加費無料であるが、事前予約制となつており、予約受付中である。

●予約先・問い合わせ連絡先

山口の朗読屋さん（林伸一）

FAX 090-16415-8203

朗読屋さん 代表)

ビナードとともに平和を考える朗読会」が山口の朗読屋さん主催で実現した記念すべき日だからである。

結局、今年は8月15日（日）1時～4時に「アーサー・ビナードを囲む朗読＋お話し会」が山口市民会館小ホールで行なわれることとなつた。

定員は94名。当日は、ビナード氏の翻訳絵本を紹介し、本人に解説してもらう予定。エリック・カール作『ありえない！』の原語の英語、斎藤隆介・文、滝平二郎・絵の『花ざき山

反戦情報創刊四〇周年によせて

「社会主義にツカれた」人にも
やさしく語る雰囲気

石川 捷治

『反戦情報』誌には、初期社会主義時代の社会主義雑誌のような雰囲気・においを感じる。平民社は「非戦」の旗を掲げ大八車で伝道行商をおこなつたが、編集部N氏がオートバイを飛ばし読者を一人ひとり訪ね議論をかさね、それを書きませんかと誘うところは現代に再生した「初期社会主義者」のようだ。

社会主義史研究のなかでも「初期」の研究は盛んだが、それ以降は低調だ。なぜかというと、「初期」の社会主義には、多様性があり、思想の未分化、人間の個性が輝く、そんな局面が多かつたからである。しかしソ連崩壊後、社会主義史全体への研究意欲は著しく低下したまゝになっている。ゼミ卒業生たちが私の退職の記念に『社会主義の世紀』（熊野直樹・星乃治彦編、法律文化社、2004年）と

いう本をつくってくれた。その副題に『解放』の夢にツカれた人たち」とある。「ツカれた」の意味は2つあって、その思想を取りつかれた人、とそれ故に疲れられた人をあらわすという。『反戦情報』は「疲れた」ひとにも優しく、諦めるには未だ早い、もう少しみんなで考えてみませんかという雰囲気がある。

私は、安倍・菅政権の本質を「半クーデター政権」と特徴づけてきた（本誌、2020年11月15日号参照）が、オリ・パラの強引な開催強行をみると、ますますはつきりしてきた感じがする。どのようにクーデターの完遂を狙っているのかというと、2014年7月の集団的自衛権行使容認の閣議決定を直接的かわりに「戦争できる国家」への強制転化を目指す「平成の改憲クーデター」

である。その軍事体制（日米共同）はほぼ完成し、発動の機会を待つのみというところまで進んできている。

菅政権はこう考えていると思う。“いまだ多数の抵抗や世論の反対があつてもオリ・パラが始まれば、国民はメダル競争にうかれるはずだ。その後に軍事的衝突でも起これば、「クーデター」は一挙に「完全のクーデター」として完成できる。”

本来統一戦線的志向の強い『反戦情報』が発行・継続される意味を改めて噛みしめたいと思う。

（いしかわ しようじ／政治史研究者、もと北九州大・九州大・久留米大教員）

われた30年が続いています。その上、景気が悪いのに消費増税はするという破茶減茶ぶりで、日本だけが延々不景気で給料が上がりず、むしろ下がつてしまつたのです。日本経済の国際的地位は低下し、出生率も上がりず人口は減り続ける。こうした中でリベラルな勢力に支持が集まり、2009年には政権交代が起こって民主党中心の政府が誕生しました。しかし政権は民主党が元来持っていた都

この40年間、色々なことがありました。三公社は民営化され、消費税も導入されました。小選挙区制が導入されて社会党は消滅し、公明党は自民党と一体化しました。1980年代後半はバブル経済が猛威をふるい、それがはじけてからは失

てているのだ。しかし菅氏はこれまで見てもカケにてんで弱い。そうはいかないとと思うが何が起ころか分らない。

歴史的に見ると、日常的に対立しライバル関係にあつた政治勢力や市民が、「こんな政治はもう止めにしよう」という一点で結集する「スイッチ」が入る時（瞬間）がある。戦後日本史でいえば、革新自治体が次々に誕生した60～70年代以来40年ぶりだ。しかもそのうねりはかつてより広範囲である。さらに進んで「新しい人民戦」である。その軍事体制（日米共同）はほぼ完成し、発動の機会を待つのみというところまで進んできている。

無党派リベラル系 メディアに期待

今宮 憲一

この40年間、色々なことがありました。三公社は民営化され、消費税も導入されました。小選挙区制が導入されて社会党は消滅し、公明党は自民党と一体化しました。1980年代後半はバブル経済が猛威をふるい、それがはじけてからは失

き、それは菅政権に継承されています。

金持ち喧嘩せらず、保守反動というものは團結しています。いま左翼リベラルは合同して、庶民生活向上の経済政策を打ち出す時です。左翼やリベラル勢力は内ゲバ本質を一掃し、自民党政治を終わらせなくてはなりません。そのためにも無党派リベラル系メディアの役目に期待しています。

(いまみや けんいち／山口県在住、
高校教員)

権力に抵抗する持続的なる精神を！

清田 勝成

「哲学者たちは世界を様々に解釈してきたが、重要なのは世界を改革することである」、また「昔から無知が栄えたためがしない」というマルクスの言葉をいま改めて思い起します。今日、日本のメディアは重要なことを伝えず、国民を情報弱者にしています。権力者がメディアを抑圧しているからで、これではかつての戦時体制と変わりません。今の異常な世界について正しく知ることがなければ、私たちは冷静に時代と向き合うことも自分自身を正しく認識することもできず、私生活に埋没してしまいます。二〇一五

「異議申し立て」の大なる役割

藏重 元

（せいたかつなり／下関市在住、
日本キリスト教団牧師）

今この状況において『反戦情報』は、民主主義の重要な指標である異議申し立てという点で大切な役割を担っています。

N氏のご健勝を祈念しつつ、本誌の刊行がさらに細く長く続くよう願っています。元にはそのときのルポを記した『反戦情報』が残っている。

米軍再編という在日米軍の政策は、岩国市庁舎の建設補助金凍結など市民へかけられた災厄、止まることを知らない岩国基地機能の拡大強化へと続き、降りかかる火の粉のように岩国市民に浴びせ続けられた。そのたびに私は、『反戦情報』の誌面を借りて窮状を訴え、さらなる取

年九月の「安保法制諸法案」に多くの国民と憲法学者たちが反対しましたが、当時のマスクの対応は権力に妥協的で、いつの間にか反対の声が消されていきました。

この国では国家権力に抵抗する国民の権利意識が低いため、権力者は欺瞞と責任逃れを繰り返しています。安保法制違反訴訟に対して裁判所は憲法判断を避け、主権者の平和的生存権を擁護する本来の裁判所の機能を果していません。恥は一つの革命の始まりです。過去の恥、大災害や原発事故の痛みを契機に、私たちは経済優先から「脱成長」の真の豊かさに向かって歩み出し、自発的なアソシエーション（共同体）の形成を目指すべきでしょう。『反戦情報』はそのための働きと、権利のための闘いの一翼を担っています。スタッフの方たちの四十年にわたる熱意に、心から感謝とエールを送ります。

本誌創刊40周年に至る過程における最大の危機は、やはり数年前のN氏の大病でしょう。多くの読者や関係者が心配しました。しかし、見事にこの大病を克服され、本誌の続刊となりました。氏の不健康な生活習慣、特にヘビースモーカーぶりには正直、危機感を抱き、健康被害を心配しておりました。大病を契機に健康的な生活をされているようで何よりも幸運です。

米空母艦載機移転反対が圧倒的多数を占めた岩国市住民投票は、2006年3月12日に実施され、全国を揺るがした。

住民投票前に錦帯橋下河原で行われた「3・12 GO！」人文字行動には1500人が集い、岩国ではかつてなかつた大衆的な反対運動が高揚した。それは、圧倒的な市民の意思が住民投票成功へ向かう、闘いの勝利の一幕だった。今、筆者の手

月刊『反戦情報』創刊40周年、おめでとうございます。

活動記録の機関誌 生活に食い込んだ

田村 順玄

折を経ながらも、40年も続いたということと自体、慶賀すべきことかと思います。そもそも雑誌が10年以上続くことすら稀なことです。書店等の販売路がないにも拘わらず、本誌が40年も続いた要因としてやはりN編集長の人柄によるところが大きいと思います。氏のあの独特な語り口によつて執筆依頼等されるとなかなかカノーとは言えず、しかも独立独歩の氏の自由な生き様も人を惹きつけていると見えます。

1995年4月、私は岩国市議会議員として活動を再出発した。以来24年間、議員活動のかたわらにいつもおいていたのが『反戦情報』だった。

米空母艦載機移転反対が圧倒的多数を占めた岩国市住民投票は、2006年3月12日に実施され、全国を揺るがした。

住民投票前に錦帯橋下河原で行われた「3・12 GO！」人文字行動には1500人が集い、岩国ではかつてなかつた大衆的な反対運動が高揚した。それは、圧倒的な市民の意思が住民投票成功へ向かう、闘いの勝利の一幕だった。今、筆者の手

（とうございます。この間、まさに糸余曲『反戦情報』創刊40周年、誠におめでたす。大学教員）

り組みを鼓舞していつた。

今や『反戦情報』は、こうして私たちの生活に深く食い込んだ活動記録の機関紙となつてゐる。歴史の一コマを刻んだ『反戦情報』が創刊40年という節目を迎えたことは大きな喜びである。今後とも、『反戦情報』が私たちの活動のバックナンバーとして記録されてゆくことを願い続けたい。

創刊4周年
います。

平和研究所 代表)

研究者に「実社会の外気」提供

土屋
明広

『反戦情報』 || Nさんとの出会いは大

『反戦情報』＝Nさんとの出会いは大學生になりたての頃だったと記憶している。今から20年以上前のことだ。恩師の研究室に突然現れたNさんは、自己紹介を交わすこともなく初対面である私に平然と話しかけて、『反戦情報』の定期購読をするように、と極めて自然に勧誘されそのまま購読者になつた。幻術にかかるのかもしれない、と今振り返つて思う。その後、大学院を修了し、いくつかの大学での勤務を経て今に至るが貴誌

計画公表後、建設予定地から海上4kmに位置する祝島の島民が立ち上がり、反原発組織『愛郷一心会（後に「上関原発を建てさせない祝島島民の会」に組織再編）』を結成し、原水禁山口県民会議や県内外の反原発市民団体等と連携・共闘しながら、反対集会の開催、中国電力や県への申し入れ行動、白紙撤回を求める全国署名の集約と経済産業省交渉などの実施に加え、隔月の上関町全戸ビラ配布

『反戦情報』創刊40周年、誠におめでとうございます。

行動などの取り組みを継続しています。
2011年3月の東京電力福島第一原発事故以降、現地での中電の動きは止まつたままでしたが、2016年に引き続き2019年に県が公有水面埋立免許の延長申請を許可して以降、毎年、海上ボーリング調査を强行しようとしています。

柳本
康仁

山口県民会議 議長

「知の「モノ」、若い世代へ引き継ぎを

松田文雄

私は創刊以来の読者なので、もう40年
もお付き合いしていると思うと感無量で
す。

私は、某政治党派の青年同盟員として、『反戦情報』の読者になつたわけですが、党派の準機関誌らしからぬ誌面に新鮮な

が先にあるのではなく、事実に基づいて情勢を研究しようとしていたこと、そして研究したことをきちんと積み上げて、

『反戦情報』＝Nさんは、研究のケの字も理解していない院生時代の私に多くの執筆機会を与えてくれた。字数制限のある中で自分の考えを簡潔にまとめていく、研究者にとって必要な修養の場を提供してくれたと感謝している。また、時

折、院生部屋に現れては、社会情勢や自らの活動体験談などを軽妙洒脱に語つてくれた。Nさんによつて吹き込まれる「外気」は、研究にとつて実社会を意識することが大事であると氣付かせてくれるものであつた。Nさん、これからもお元気でお過ごしください。貴誌の益々の発展を心より祈念しております。

私たちも引き続き上関原発計画の白紙撤回の取り組みを力強く推進していきます。

反戦情報 2021.7.15 No.442 18

それをベースに新たな問題を解明しようとしていた姿勢です。党派機関紙にあり

がちな、目先の政治課題だけを追いかけ、研究の蓄積もなければ、総括もなく、「党中央」が右向けと言えば、右を向き、左を向けと言えば、左を向くという悪い体質とは一線を画するものを持つていました。

そうしたスタンスが、歴史が20世紀から21世紀へと移ろうとする時期に、「党中央」と衝突し、かれらと決別して、「反戦情報」が新たな飛躍を遂げる土台となりました。そして、事実に基づいた研究とそれを蓄積する姿勢は、アカデミアの世界で研究者としての鍛錬を受けた人々にも評価され、支持されてきたのだと思います。

ただ、某政治党派のなから生まれたことは悪いことばかりではありません。つねに抑圧された人々の側に身を置き、人々のなかに入り、どんな困難ななかでも貫して活動を追求していく、その思想的バックボーンが無ければここまで続かなかつたと思います。

『反戦情報』への叱咤激励を書いてくれと編集部から依頼されました。私が叱咤激励するのはおこがましいです。ただ、あえて言うならば、編集部の皆さんも私も、20代、30代の若者であつたものが40年も歳を重ねてしましました。今こそ、『反戦情報』が積み上げて

きた貴重な知的蓄積とネットワーク——

今風の言葉で言えば「知のコモン」を何らかの形で若い世代の担い手に引き継いでいただきたいと切に願うものです。同じ形でなくてもよいので、もつと今の時代にふさわしい形で。

(まつだ ぶんゆう／京都市在住、団体役員)

「おもてなしの国」の真実

毛利 慶典

アメリカ＝60万5567人、ブラジル＝52万512人、インド＝40万2728人、メキシコ＝23万3689人、ロシア＝13万6279人、イギリス＝12万8231人、フランス＝11万270人……日本＝1万4867人……全世界＝398万3927人。新型コロナ感染症によつて亡くなられた人の数（2021年7月5～6日現在）です。

亡くなられた人の数の比較は被害の大

きさを表すのですが、「よりマシ」という優劣判断の材料にされることには抵

抗があります。

もし、自分が感染し、1万4868人

死亡者数の比較には何の意味もありません。

ん。「いのち」は、一人につづつのものだからです。

ある政府関係者は、日本より被害の大い国の百万人あたりの感染者数をグラフ化したもの提示し「日本はこの程度の『さざ波』。これで五輪中止とかいうと笑笑」とネット上に書き込みました。

「いのち」が失われるときの悲しみを私たちは知っています。自分の家族や親しい人を失つても「この程度の『さざ波』」とは言えないでしょう。

「さざ波」発言をニュースで見たとき、脳裏をよぎつたのは、相模原障害者殺傷事件の加害者、植松聖でした。彼の発言を通して透けて見えるのは、「この程度」とか「笑笑」という上から目線と優生思想です。「絆を取り戻す意義」とかいうけれども、なんとも軽い絆ではないですか。

(もうり よしのり／広島県三次市在住、僧侶)

收縮する言論空間で踏みとどまる

山田 良介

創刊40周年おめでとうございます。『反戦情報』（と編集部のNさん）とは私が

の卓越した知見と巧みな話術そして押しの強さに取り込まれ、気が付けば約四半世紀がたちました。

当初は、某組織の下部団体だつたため、その枠内での論調を開いていたのが、前世紀末に独立して以降、幅広い視点から現状の政治・社会の動向に批判を加える誌面へと転換し、現在へ至つていると思います。独立の際は読者の減少や財政面での困難などの危機に直面したのでしょうかが、自由なスタンスを取ることができたことに加え、編集部の強い信念とやら愚考しています。

本誌の魅力は、マスコミがとりあげない政治・社会そして地域の問題を掘り下げて伝えていることです。テレビや新聞などの既存のメディアは、政治権力に対する監視者という本来の役割を担う力が削がれており、その一方で今世紀になつて台頭したインターネットやSNSでは「怪しい」情報が飛び交っています。このような状況において本誌が果たす役割は益々重いものになつています。今後も良質な誌面と継続的な発行を切に願います。

(やまだ りょうすけ／福岡県在住、大学教員)

皆さんも私も、20代、30代の若者であつたものが40年も歳を重ねてしましました。今こそ、『反戦情報』が積み上げて

死亡者数の比較には何の意味もありません。

大學院生のとき出会いました。Nさん

『アリランの歌』再考（9）

吉留昭弘

（前号よりつづく）

(一三)

●キム・サンの『肅清』と『アリランの歌』のその後

一九三七年、盧溝橋事件を突破口として日本帝国主義の中国侵略が本格的に始まつた。この年夏、キム・サンにたいするアメリカ人作家ニム・ウェーラーズのインタビューが終わった。インタビューは二〇回、ノート七冊分に及んでいた。この原本を携えてニム・ウェーラーズは延安を離れた。

原本がふたりの共著として世に現れたのは、四年後の一九四一年だつた。『アリランの歌——ある朝鮮人革命家の生涯』と題したこの著作は、世界中の人々を驚かせた。そこには、それまで世界にほとんど知られていなかつた朝鮮人革命家たちの活動とその生き様が、キム・サンという一朝鮮人革命家の半生を通して

率直に、またリアルに語られていたからである。『アリランの歌』は世界中の読者に深い感銘を与えた。

しかし、人々をさらに驚かせたのは、キム・サンと『アリランの歌』のその後の運命である。『アリランの歌』が世に出た一九四一年には、キム・サンはすでにこの世を去っていた。キム・サンのその後の消息は不明で、肺結核で亡くなつたか、それとも念願のパルチザン闘争に参加して戦死したのかと思われていたが、実はニム・ウェーラーズが延安を離れた翌一九三八年に、中国共産党の肅清によつてこの世を去つていたのであつた。

どうしてこのような不条理がこの世で起り得るのか。中国共産党は中国人民の解放とプロレタリア国際主義の旗を掲げて創立されたのではなかつたのか。それがこともあろうに、中国革命に参加し貢献してきた朝鮮人革命家をどうして肅清されるのか。この驚天動地とも言うべき肅清事件は、世界中の読者に波紋をひろげわれわれの想像をはるかに超える殘虐さ

共著者のニム・ウェーラーズもキム・サン肅清の事実に衝撃を受けていたが、キム・サンの遺子・高永水あての手紙に自らの見解を示していた。それは、康生（編注・毛沢東の腹心）が一九三七年のスターインによるトロツキスト肅清を見て、ターリンによるトロツキスト肅清をみてのち帰国していること、キム・サンの肅清はソ連におけるトロツキスト肅清と関連づけて考察すべきとの推測であつた。アメリカにまで出かけてニム・ウェーラーズの見解を求めた作家・李恢成にたいして、彼女は「真相は私が死んだあと明らかになるだろう」（李恢成・水野直樹著『アリランの歌』覚書）と語つていた。

本稿では、ニム・ウェーラーズの推論に従つて、旧ソ連邦と中国で実行された肅清事件のあらましを追溯してきた。ソ連邦における党内反対派の肅清は本誌（3）（6）まで、中国における肅清事件は（7）、（8）である。一九二〇年代から一九八〇年代末（天安門事件）までの約七〇年にわたる両国での肅清の実態は、

キム・サンの思想に深刻な影響を及ぼしたのは、一九二七年的『広州コミューン』と海陸豊での経験だつた。この体験は後のキム・サン『肅清』の遠因ともなつてくる。

●「広州コミューン」と海陸豊の経験

わまるものだつた。このような暴虐が「マ

ルクス・レーニン主義」「社会主義」「プロレタリアート独裁」の名の下で行われてきたのであつた。その犠牲者の数は中國だけでも五〇〇〇万人をはるかに上まわると思われる。キム・サンの事件は中國における肅清のはしりであった。

このような暴虐のかぎりを尽くした「スターリン政治体制」はどのようにして生まれてきたのか。ここでは再度ふれないが、われわれが深く検討すべき問題として依然、残されている。

一九二七年四月一二日の蒋介石による

てこなかつた。

「上海大虐殺」は、中国第二次革命の大
きな分かれ目であつた。二五〇二七年に
中国的労働者・農民運動は大きな発展を
みせた。上海では労働者民衆は軍閥を三
度の蜂起で追い払い「上海コミューン」を
創立した。このような労農運動の発展を
中国ブルジョアジーは恐怖し、蒋介石軍
は労働者・農民の運動への敵対を強めて
いた。「上海コミューン」の成立は蒋介石
石にとつて容認できないものであつた。
彼は「上海コミューン」攻撃の機会を狙つ
ていた。蒋介石軍に別の方から援軍を
送つたのは、コミニンテルンのスターリン
派だつた。スターリン派は「武器は隠し、
蒋介石軍を丁重に歓迎せよ」との指令を
中国共産党に送つたのであつた。蒋介石
軍は堂々とコミューンに乗り込み、武器
を持たない労働者民衆を無残に殺害し
た。

トロツキーらソ連の党内反対派は、「中國
共産党は『國共合作』から脱退し労農
民衆を思い切り起ち上がらせる政策に転
換すべき」と蒋介石の反動的暴挙に早く
から警鐘を発していた。

「上海大虐殺」を機に、革命運動の局
面は高揚期から下降期へと大きく反転し
た。反動派はいたるところで攻勢に出で、
労農大衆に襲いかかつた。国民党の尻尾
にあくまでもしがみつこうとするスター
リン派の政策に、労農大衆はもはやつい
つかつた。

二七年八月一四日の南昌蜂起とそれに
続く一二月の「廣州コミューン」蜂起が
その極「左」路線のはじりである。いず
れも大衆不在の戦いで三日天下に終わつ
た。キム・サンら朝鮮人革命家たちはこの
盲動作戦に動員されたのであつた。朝
鮮人革命家のほとんどが犠牲になつた。
キム・サンらはかろうじて廣州を脱出し
生き延びたのであつた。

『アリランの歌』に記されている「廣
州コミューン」と「海陸豊の生と死」の
記録は、中国革命史の貴重な資料であ
る。このような生きた資料は他にほとん
ど見出せない。

二七年の時期には、トロツキーの「中國
革命論」もまだ中国には届いていなか
つた。スターリン派の指導路線の下で辛酸
をなめた陳独秀がスターリン派に叛旗を
かかげ、「全同志に告ぐる書」を発表し
たのは数年後のことであつた。キム・サ
ンら朝鮮人革命家は、自らの革命実践の
なかからマルクス主義の路線に近づきつ
つあつた。

「中国の党的あそこに一人、ここに一
人と、朝鮮人が散在していたのではあま
り役に立たぬ。共通活動のときには協同
して働くが、ただ中国のためにそのまま
犠牲になるのではなく、朝鮮の革命を保
障しなければならないと決めた。一九三
二年からこちら、朝鮮の共産党とわれわ
は延安から一步も外へ出ることは許さ

の高揚期には「労農ソビエトを樹立せよ」とのトロツキーの政策に反対し、下降期
になつてそれを提起し、中国共産党指導
部に強要したのである。

二七年八月一四日の南昌蜂起とそれに
続く一二月の「廣州コミューン」蜂起が
その極「左」路線のはじりである。いず
れも大衆不在の戦いで三日天下に終わつ
た。キム・サンら朝鮮人革命家たちはこの
盲動作戦に動員されたのであつた。朝
鮮人革命家のほとんどが犠牲になつた。
キム・サンらはかろうじて廣州を脱出し
生き延びたのであつた。

生き残つた朝鮮人革命家たちが到達し
た結論は、次のようなものだつた。

一九三五年の夏と秋、ほとんどすべて
の朝鮮人革命指導者がひそかに上海に
参集して、われわれの問題の討議を行つ
た。広東時代以来のわれわれの役割を検
討し、朝鮮、満州、日本並びに中国の状
況を徹底的に研究した……更に上海では
極東の各国に働く多くの同志から情報を
得て、わたしは朝鮮の革命とそれに先
立つて解決されるべき課題に関して、長
い分析を書きあげた。この報告は朝鮮の
指導者たちに相当の影響力をもつた……
わが戦列に残つている数少ない経験豊富
なベテランを数え上げ、彼らが強い結集
力をもつた単位を構成して、朝鮮の革命
をあるべき形に導くための実践指導にあ
たることが決定された」(351頁)

こうしてキム・サンはいくつかの課題
をもつて延安に向かうこととなつた。し
かし、朝鮮人革命家たちと毛沢東ら中国
共産党指導部との間にはすでに大きな壁
があつた。中国共産党の観点は、中国の
党に入った者は中国の党の路線に従うべ
きであり、中国革命に従事すべきである
というものであつた。そこには、他国の
革命にたいする配慮も東北アジアの革命
にたいする觀点も見出すことはできなか
つた。

延安は、キム・サンらが考えていたよ
うな率直に意見が交換できるような「革
命の聖地」などというものでは既になく
なつていたのである。

彼は延安に着いてまもなくその厳しい
現実に気付いたに違いない。しかし、も
は延安から一步も外へ出ることは許さ

れ満州の共産党とは独立している——と
いうのも中国人は朝鮮の問題を研究して
おらず、ほとんど理解していないからで
ある。

もうこれ以上、水に塩をとかすように、
われわれの仲間を失うことはできない。
一勢力にたいする他の一勢力として中国
に連合すべきであり、空費される個々人
であつてはならない。日本帝国主義の動
きが急な今日、われわれのエネルギーを
今後の活動に備えて朝鮮人運動を急速に
築き上げ準備する方向に向けねばならぬ」

(二五)

●「朝鮮人解放同盟」と 「朝鮮民族解放」の旗

（二五）

れなくなっていた。ニム・ウェーレルズもそのことを感じ取っていたのではないか。『アリランの歌』の最終章「敗北のうちに敗北せざるもののみ……」の行間にそれは読みとることができる。

(二六)

●民衆の「東アジア共同体」をめざして

「私の全人生は失敗の連続であり、私の故国の歴史は失敗の歴史であった。私の得た一つの勝利は——克己である。だがこのささやかな勝利でも、仕事を続けていく自信を得させてくれるには十分である。運のいいことに私の体験した悲劇や敗北は私を打ちくだかず、かえって私を強めてくれた。幻想はもうほとんど持てないが、人間と歴史を創り出す人の能力との信頼を失つてはいない。歴史の意志を誰か知る？　ただ生きるために権力を覆さねばならない被抑圧者のみ、最後の戦闘で完全な新しい世界を獲得するためあらゆるものを使い、敗北を重ねてきてなお敗北せざるもののみ、圧政は苦痛であり、苦痛は自覚である。自覚は行動をもたらす。人間を再生させるためには幾百万の人々が死に、幾千万の人々が苦しまねばならぬ。私はこの客観的事実を認める。流血と殺りく、愚行や失敗の様相も、私の未来の洞察を妨げるものではない。

人類の歴史を伝えるものは民主主義であり、この伝統はすべての人に生まれながらに平等に与えられた権利である」(357頁)

キム・サンら朝鮮人革命家がめざしてきたものは、もちろん朝鮮半島の解放だが、しかしそこにとどまるものではなかつた。朝鮮人の解放でさえ、日本、中国といふ近隣諸国人民運動とのかかわりなしには、それらとの連携なしには考えられなかつた。かれらはこのことを革命運動の実践のなかから学びとつてきていた。かれらは朝鮮革命を志向すると同時に、目を世界に向け、北東アジアの解放自らの使命と考えていたのである。

「決めました。私たちは本を作るべきです」と彼は言つた。

「あなたが朝鮮について本を書きたいといつてくださるのは、まことに有難いことです。アメリカ人やイギリス人だけでなく、中国人や日本人、外国にいる朝鮮人も読んでもらい、朝鮮がまだ負けた訴訟でないことを知つてほしい。そのために私はなんにもかもお話しするつもりです。それで私が苦労することになると、それでも、やり申斐のあることです……いずれにせよ、朝鮮人は自分の墓の心配はしません。どこだつていののです。けれどもし出版を二年だけ待つていただけ

るなら、私にとつては好都合です。それまでに満州の朝鮮人義勇軍に加わつていたのです。その頃には戦況もすっかり変わつて、この種類のことを公表しても誰にも危険はないでしょう。朝鮮での運動が再び盛り上がるその時こそ、こうして本の価値があります」(45頁)

『アリランの歌』が世に出てから八〇年が経つた。いまや世界は二二世紀に入っている。「人新世」といわれるこの時代は、人類が「文明か野蛮か」を最後的に問われる未曾有の時代を予想させる。

地球を覆う気候変動とくり返される大規模自然災害、進行する少子化と人口減少、感染症の襲来、核兵器削減のどん詰まりと止まらぬ原発。これら人類ばかりか地球上のすべての生命を危機に追いつめているものこそ、人類の資本主義そのものが、敵に変わつたのである。この大変動にたいしてどうのように対応していくか。新しい問題である。

沖縄人民をはじめとする日本人民、朝鮮人民、台湾人民と中国人民、これら東アジア諸国人民はこれまでの連帯と団結の環をさらに強化し、中・米両霸権主義と各国反動派に反対する闘争を前進させしていくべきである。われわれのめざすものは、民衆の「東アジア共同体」である。

キム・サンらが期待した新しい時代が、激動とともに訪れようとしている。台湾海峡の波は高くなつており、朝鮮半島の情勢は、予断を許さない。

『アリランの歌』は未だ「未完」である。
（よしどめあきひろ／東京都在住、
社会主義問題研究者）

『愛しのソナ』

ヤン・ヨンヒ監督

評者 鈴木右文

「愛しのソナ」（二〇一二）は、在日二世のヤン・ヨンヒ監督が、北に渡つた兄の娘のソナを主にした平壤の家族の様子、監督の実家の両親の様子を撮つたドキュメンタリー。

監督の父は済州島出身（母は大阪生まれ）で「朝鮮籍」だが、差別から北を楽園と思い、息子三人は帰国事業で北に移住した。

監督はたびたび平壤の家族を訪問する。最初に描くのは一九九五年で姪のソナは三歳。次の二〇〇一年は両親も同行、生活苦が描かれ、父と息子の散歩は寡黙だ。拉致問題が注目された二〇〇三年の大坂では衝撃を受ける父が描かれる。二〇〇五年の平壤は、「ディア・ピヨンヤン」（二〇〇五）で入国禁止となつたため、監督最後の訪朝となつた。その後の大坂では父の死去までを描く。晩年促されても北の歌を歌わなかつた父のシーンが印象的。

作品は貴重な平壤市民の暮らし向

きも映す。水道や電気の制限、庶民に手でのない外貨レストラン、無許可の仕出業などが登場する。

上映後の監督の講話を聞いたが、家族を描いただけで反北作品ではないとのこと。しかし家族が幸せに暮らすことを妨げるものに対する態度表明となつてしまふのは仕方ない。

一九九〇年代に北への入国と「ガイド」の同行が厳しくなつたこと、フイルムの持ち出しが厳しいこと、正式の許可を取つての撮影はしたくなかったこと、その他平壤のことなど、貴重な話を聞くことができた。

本作は英題「ソナ…もうひとりの自分」で、選択が与えられないソナとそれが許される場所で育つた監督の関係に思いを寄せたい。「ディア・ピヨンヤン」で父を、本作で姪を描いた監督は、母を描く「ステップとイデオロギー」を準備中だそうだ。

（すずき ゆうぶん／九州大学言語文化研究院教員）

【訂正】前号P11〈新刊紹介〉タイトル中、筆者名（＝豊島耕二）が脱落していました。お詫びして訂正いたします。

△編集後記

▼本号のメインタイトルは「東京・4度目『緊急事態』でも五輪は強行」としました。

「巻頭言」でも触れましたが、この7月8日、政府は東京に4度目の緊急事態宣言を発出しました。多くの国民・都民が「パンデミックの中、なぜ中止、ないしは再延期しないのか」という当たり前の疑問を、何度

発しても「安心・安全の大会実現に向けて準備を進める」と、壊れたレコードのように繰り返すだけの菅首

相の対応に、「この人は国民とともに対話することができないのだ」と感じたのは、筆者だけではなかつたのではと思います。安倍前首相の「がん論法」にもムカツツが立ちましたが、菅首相の「壊れたレコード」を聞かされるのにも、そろそろ堪忍袋の緒が切れそうです。

誰かが菅首相の冷酷そうな目を見て「戦前の特高警察もさもあらん」と感想を述べていましたが、まとも

な人間としてのまともな理性、感覺や感情は、利権や権力の垢にまみれた自民党政治の毒でなくしてしまつたに違いありません。

それにしても、「緊急事態宣言発出」に際した7月8日の首相記者会見のバカさ加減は、超ド級でした。

先進国中最底のワクチン接種率をわざに置いて、最近の日本の接種スピードが世界「最速」と自慢する、その感覚が理解不能で笑うしかありませんでした。「周回遡れのトップランナー」らしく、自らの政策の失敗を素直に謝罪するところから始めるべきでしょう。

大衆から浮いた権力者の醜さは国が違つても同じだと感じましたね。（編集部N）

反戦情報編集部（代表：永田信男）

〒753-0212 山口市下小鯖2836-9

(T/F) 083-929-3674

山口連絡所

(T/F) 083-902-3030

郵便振替口座

01520-5-12786

加入者名 反戦情報

銀行口座

E-mail:nagatanobuo@gmail.com

普通預金 2012672
加入者名 永田信男
銀行口座
福岡銀行箱崎支店
E-mail:nagatanobuo@gmail.com

